

# 自己評価票

## 地域密着型サービス自己評価項目

### (評価項目の構成)

#### .理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

#### .安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

#### .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

#### .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

#### .サービスの成果に関する項目

#### 【記入方法】

複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。

次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。

項目番号23 初期に築く本人との信頼関係

項目番号24 初期に築く家族との信頼関係

項目番号25 初期対応の見極めと支援

項目番号26 馴染みながらのサービス利用

項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援

次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。

項目番号53 身だしなみやおしゃれの支援

項目番号59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援

項目番号60 お金の所持や使うことの支援

項目番号61 日常的な外出支援

項目番号62 普段行けない場所への外出支援

項目番号63 電話や手紙の支援

項目番号64 家族や馴染みの人の訪問

#### 【用語について】

管理者 = 指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。

職員 = 「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名 グループホーム トモ・ハウス

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)  
氏名

柳内英俊

評価完了日

平成21年 1 月 31 日

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の理念としては「相互支援社会の実現」。グループホームの理念は「私たちは一人ひとりの尊厳を守り、地域で安心して暮らせるように支援いたします。」として分かりやすく掲げている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎日のミーティングや勉強会等では取り上げて話し合うようにしている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>理念を玄関先の見やすい場所に掲示して、だれにでも理解してもらえるよう取り組んでいる。家族会を年3回行い、家族の方々にもグループホームの理念が伝わるよう努めている。</p>	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>隣組に加入し、回覧板を置きに訪問したりしている。また、近隣への散歩に出かける機会を作り、近隣の人たちと挨拶を交わし顔なじみになってきている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>毎年恒例の秋祭りには、地域の方々を招待して交流に努めている。地区の保育所、幼稚園との交流も行っている。地域の清掃活動や防災活動には協力して地域に貢献している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>	<p>管理者は老人会や地域の会合等で認知症ケア 等の啓発に努めている。事業所の広い敷地を生 かし、地区の消防訓練の場所と人員の提供を行 い、今後も地域からの要望に応じていく準備が できている。</p>	
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>サービス評価の意義や目的を職員に伝えて、自 分たちが行っていることを再確認するとともに、外 部評価を有効に活用している。また、外部評価の 結果を踏まえて改善計画を作成し、質の向上に 取り組んでいる。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では区長、民生員、家族代表、地 区の長寿会、協力医院、地域包括支援センター に出席してもらい、質問や意見、要望等をサー ビスの向上に活かしている。2ヶ月に1回定期的 に行なっている。</p>	
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる</p>	<p>行政が主催する地域の会議には出席して、関係 づくりを積極的に取り組んでいる。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は成年後見制度、地域福祉権利擁護制 度を理解しているが、現状では、成年後見制度 等が必要なケースがないので、職員までは理 解していない。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法までは学んでいませ んが、日頃から認知症を理解できるように同業者と 合同で勉強会等を実施して、虐待の防止遵守に 努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間をかけて丁寧に説明している。契約の改訂は家族会の時に十分な説明をし、同意を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見や不満は出しやすいように働きかけて、利用者本位の運営を心がけている。家族や面会の方が来訪した時に、職員が席をはずすようにして家族へ意見や不満を言い出しやすい環境を作っている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>心身の状況等について何らかの変化や問題が起きた時にはすぐに電話にて報告している。近況については家族の面会が多いのでホーム内に掲示し、口頭で近況の報告も行えるようにしている。また、季節ごとのホームたよりを作成して、より具体的な報告ができるようにしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>施設主導ではあるが、家族会を設け何でも言ってもらえるような雰囲気に留意している。また、玄関先に意見箱を設置したり、家族が訪問時に何でも言えるような関係づくりに努めている。要望等はミーティング時に話し合い反映している。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回の勉強会や毎日のミーティング時に意見を聞くようにして、職員だれもが言い出しやすい環境に努めている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>余裕を持った人員を確保して、状況に応じた対応ができるように管理者を通常のシフトに入れないようにしている。業務の見直しを随時行い、必要により勤務時間を変更して利用者の要望に対応できるよう努めている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を固定化して、馴染みの職員が継続的に支える体制をとっている。異動や離職者でた場合でも必要最小限に抑えるようにして、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は主に福島県グループホーム連絡協議会主催の研修会には勤務を調整して、全職員が順番に参加できるよう配慮している。内部研修は月1回実施している。その中で定期的に他ホーム職員と意見交換、事例発表等を行って人材育成に努めている。		
20 同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福島県グループホーム連絡協議会に加入して会議、研修には積極的に出席している。また、同じ地区のグループホームの管理者と連携を取り合って、職員同士が事例を検討したり、職場での悩みを話せる機会を定期的に持ち、サービスの質の向上に努めている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。勤務時間中でも気分転換できるよう配慮している。定期的に他ホームの職員との交流でストレス軽減の機会も作っている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は併設の事業所の管理者として勤務し、ホームで起きている状況も把握している。また、職場環境についても配慮し、働きやすい環境を作っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている(小規模多機能居宅介護)</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている(小規模多機能居宅介護)</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>支援する側、される側という認識を持たず、家事を中心にお互いに協働しながら和やかな生活ができるように心がけている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、本人を支えていくための協力関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族と一緒に過すことを勧めたり、行事や誕生会に家族を誘ったりしながら、より良い関係を築けるよう支援している。外泊を希望する家族には、制限なく自宅に帰って過していただいている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や外出に制限はなく、入居されても本人をとりまく人や支えてきた人たちとの関係が途切れないように支援している。また、昔の知人に会いたい、お葬式に出たい、といった希望があれば出来る限り支援できるようにしている。		
31	利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係が円滑になるよう職員が調整役になり、一人ひとりの思いを尊重しながら支援している。		
32	関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他事業所へ移られた方のフォローとして、事業所からの相談に応じている。利用が終了しても、家族や関係者の方々に訪問していただけるような関係作りに努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	その人らしい暮らしが続けられるように、一人ひとりの思いや希望の把握に努めている。また、日々の行動や表情からも本人の思いを見逃さないよう努めている。	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	ケアに活かすという目的で、家族や知人、本人自身に少しづつではあるが把握に努めている。	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	職員は、一人ひとりの生活リズムを把握するとともに、できることをより多く引き出せるよう努めている。また、日々の心身の変化には柔軟に対応して現状の把握にも努めている。	
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	本人がより良く暮らせるために本人、家族から要望を聞き介護計画を作成している。職員からの意見やモニタリングを行ってより良い介護計画に努めている。	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	利用者の変化に応じて家族の意向を確認したうえで、現状に即した介護計画を作成している。変化があれば、職員の意見や医師の意見も取り入れながら随時計画の見直しを行なっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態の変化等は業務日誌に個別に記録していつでも職員が確認できるようにしている。また、個々のケース記録にも記載している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員会には地区の民生委員に入ってもらっている。また、消防署分遣所の協力体制もあり、救命救急の講習会、地区の消防訓練等には協働している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況や家族の希望に応じ、近隣の協力病院と在宅医療サービス体制をとっている。また、本人、家族の希望に応じて訪問マッサージも利用している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が出席している。今後も情報を交換しながら関係を密にしていきたい。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所の協力医のほか、以前からのかかりつけ医での医療が継続できるよう支援している。協力医には月に2回程度訪問診療に来てもらい、医療機関と関係を密にして、適切な医療が受けられるよう支援している。また、眼科や歯科の受診希望に対しても随時対応している。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>協力医と認知症状等の相談をしたり、指示や助言を受けている。また、服薬の変更があった時には経過を報告して個別に支援を行っている。</p>		
45				
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院した時も定期的に面会にいて経過を記録している。家族、主治医と話し合いながら、事業所内で対応が可能な段階で早期に退院できるように、通院で治療の継続を図っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化した場合でも、ホームで適切な医療を受けながら暮らしを継続できる体制がある。終末期のあり方は、今年度の家族会で具体的に方針を口頭にて全家族に伝える事ができた。</p>		<p>重度化した場合の終末期の指針を整備できるよう取り組んでいく。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>利用者が安心して終末期を過ぎていけるように協力医院とともにチームとして取り組んでいる。緊急時に対処して頂けるよう協力医とも連携を密に図り対応している。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>これまでの暮らしの継続性を損なわないように、必要な情報を提供して住み替えによるダメージを防ぐよう努めている。</p>		
<p><b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>				
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>				
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>				
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人情報の取り扱いには注意を払いながら、職員は一人ひとりの状況に応じたプライバシーの保護の徹底にも配慮している。</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員側のアプローチのしかたを工夫して、日常生活の中で一人ひとりの状況に配慮しながら柔軟に支援している。職員も少しずつではあるが、自己決定を尊重する支援に理解を示している。</p>		
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>就寝や起床、食事等の時間を一律にせず、その日その日の本人のペースを尊重して、体調や思いに配慮しながら対応している。</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援(53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)</p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>その人らしい身だしなみを大切にして、さりげない支援を心がけている。理・美容は本人が望む支援をして、家族と行きつけの美容室に出かけたり、行けない人に対しては、概ね2ヶ月に1回はホーム内で協力理容師が安価で実施している。</p>		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と一緒に買物、準備、調理、盛り付け、片付け等を個々の力を見極めながら食事が楽しめるよう支援している。また、職員も同じテーブルを囲んで楽しい食事になるよう雰囲気づくりにも心がけている。献立は委託している業者のものを参考に、新聞の広告を見て、食べたい物があれば随時変更し柔軟に対応している。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの嗜好物が継続して提供できるようにしている。茹でる時間を個別に変えたり、食事を作りながら本人へ確認したりし配慮を行っている。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>個別の排泄チェック表を活用してトイレへ声がけ、誘導するようにしている。自ら訴えができない方の行動等には注意して誘導するよう心がけている。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>利用者の希望を確認して入っていただいている。概ね午後から入浴があり、一人ひとりがゆったりと入浴できるように支援している。入浴を拒む方がいても、タイミングを見ながら安心して入れるような言葉かけ等の工夫をしている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>日中は個別に休息を取り入れている。夕方から落ち着いて過せるような雰囲気に気配り、就寝に向けて精神的に安定するよう工夫している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)</p>	<p>歌が好きな人は歌と一緒に唄い、散歩が好きな人とは一緒に散歩するなど共に楽しめるように努めている。レクリエーションよりも生活の中で役割を持ち一日一日を大切に、誰もが楽しく過ごせるような支援をしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者の能力によって所持できる支援をしてトラブルが起きないように支援をしている。また、希望により出納帳での金銭管理を行うようにしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	日常の買物、散歩を職員と一緒に出かけたり、近くの公園でおやつを食べたり、温泉に出かけたりと個別の希望や状況に応じた外出ができるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者にも意見を伺い、季節に応じた外出が出来るよう支援している。ドライブへは気候を見て気軽に出かけられるようにしている。また、入浴に介助が必要な方でも温泉に入れるように職員を多く配置し、外出支援をしている。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者の希望に応じて日常的に電話をかけたがり、手紙や年賀状を出せるようにして、外部と切れないように支援をしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している(認知症対応型共同生活介護)	他の利用者に気兼ねなく過せる部屋等を整えて、居心地のよい空間を心がけている。概ねの面会時間があるが、家族の就労等に合わせて柔軟に対応してる。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が共通認識の上で、言葉による拘束にも配慮したケアを実践している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	リビングから玄関が死角になってしまうが、人センサーのチャイムを設置して日中に鍵をかけない工夫をしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は常にだれがどこにいて何をしているのかを意識したケアに心がけている。夜間等一人で対応する時間は、安全面での優先順位を考えて対応を行っている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険になりそうだから、置かないようにするといった憶測による対応を減らし、不穏になってきたら危険な場所から遠ざける等の対応を増やすように努めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	危険な薬品等は鍵をかけて保管する等、事故防止を未然に防げることは行っている。事故が発生した場合は、事故報告書を作成して、今後の防止に繋げている。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ほぼ全職員が普通救命講習を終了した。急変時に適切な対応がとれるように心臓マッサージ、人口呼吸、AEDの使用法を習得して事故発生に備えている。月1度の消防訓練の際に緊急時の対応についても繰り返し復習できるようにしている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者の指導で、定期的に消防訓練を行い、年1回は消防署との協力体制で総合訓練を実施している。また、地域の防災訓練を施設敷地内で行い、地域の方々と共に防災の意識を高めている。年に1回同業者との合同研修で防災について話し合い、意識を向上させている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	一人ひとりに予測されるリスクは、状況の変化に応じてその都度家族へ説明している。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	毎日のバイタルチェック時に顔色や変化の確認をして、変化を日誌に書きとめ継続的に観察をしている。状況で家族へ報告をし、主治医にも相談している。	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	一人ひとりの現在の服薬状況がすぐに確認できるようにファイルにまとめている。服薬変更があれば家族に連絡して、症状の変化を主治医に報告するようにしている。	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	便秘予防のため、毎朝牛乳を飲用している。食材や水分の摂取量にも気をつけている。また、ホール内の掃除を毎日手伝ったり、散歩に出かけるなど、生活の中で運動量が上がるようにしている。	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	食前には緑茶でのうがいを実施している。就寝時には個々に応じたケアの支援を行っている。必要な方の歯科受診を支援し、協力歯科医との連携をとれるようにしている。	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	一人ひとりの状態に応じた栄養バランスのとれた食事を提供している。摂取量が少ない時は記録をしてカロリーの高い補食等で対応している。水分は嗜好に合わせたものを提供していつでも飲めるように準備している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	玄関先に消毒液の設置している。利用者および家族へ同意をいただき、職員共にインフルエンザ予防接種を受けるよう勧めている。また、食前の緑茶うがい、手洗い、手指の消毒やトイレの便座、手すりの消毒を徹底させて感染症の予防に努めている。時期に応じて、随時職員に予防の啓発に努める文書、口頭での説明を行なっている。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は新鮮で安全な食材を使用し、賞味期限を確認してから提供している。また、冷蔵庫内の食材の残りは定期的に処分している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい玄関になるように、常時電灯をつけて、植物や季節の花などを飾る、子供用のスリッパを用意するなどをして誰もが安心して出入りができるように心がけている。また、座りながらでも靴が脱ぎ履きできるようにベンチ、椅子を設置している。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが居場所を心地よく感じていただけるような空間づくりの工夫と配慮に心がけている。特にホーム内の室温、湿度、日差しにも配慮して、誰もが居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには「和」を感じる畳(移動式なのでレイアウトが自由にできるもの)やテレビ、コタツ等を置いてくつろげる場所になっている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族と相談しながら、生活スタイルに合わせて環境を整備している。持ち込みに制限せずに居心地のよい居室になるよう努めている。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>外気との温度差がある場合は、利用者の様子と温度計を見ながら温度を調整している。おやつ時間帯には空気の入替えを実施している。冬場の乾燥時には加湿器や霧吹きを使用して湿度にも配慮している。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>全フロアがバリアフリーで廊下、トイレ等には手すりを設置している。生活スペースのあらゆる面で、利用者の自立を意識した工夫をしている。</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>利用者の立場で環境をみると混乱を招く原因(近代的すぎ)があるが、トイレや個別に居室入り口に標示をする等工夫している。職員側が一人ひとりのできること、できないことを把握して、自立した生活ができるよう取り組んでいる。</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダには利用者と一緒に洗濯物や布団を干したりしている。季節で干し魚や干し柿を作って楽しんでいる。敷地内の畑で野菜を作り、収穫の際には手伝える方には手伝っていただき、食事に使用している。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない	その他( )
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない	その他( )
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	その他( )
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない	その他( )
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない	その他( )

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない <input type="checkbox"/> 全くいない	その他( )
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない	その他( )
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどいない	その他( )
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> ほとんどできていない	その他( )

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

2階にあるホームからは太平洋が一望でき、自然に囲まれた明るい環境の中で、一人ひとりの生活のリズムを大切にして、誰もが安心して暮らせるように支援しています。また、協力医との連携により、緊急時でも24時間対応できる体制が確保されています。